

同窓会副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 関 裕史



2017年7月の薬学部同窓会総会で副会長に選任されました第18期の関 裕史（せきひろふみ）と申します。

簡単な自己紹介をさせていただきます。理科大薬学部の4年生、大学院生時代は久保田研究室（薬理学研究室）に属して、松岡先生のもと、抗炎症薬の研究をさせていただきました。

その後、山之内製薬（現在：アステラス製薬）に入社して、生産技術部門や本社管理部門、海外拠点（アイルランド、イギリス）駐在でサプライチェーン管理などを行いました。

役職定年の後は、富山県にある受託生産を主な業態とする東亜薬品に勤務し、生産部門の責任者として忙しい日々を送っています。早いもので富山での生活も丸4年になります。

さて、理科大薬学部に関する幾つかの現状をお知らせ致します。

まず、薬学部創立60周年記念の催しに関してです。薬学部は来年2020年に創立60周年を迎えます。この間に1万人を超える卒業生を世に送り出し、各界のリーダーとなって大活躍されていることは皆さんご存じのとおりです。また、理科大薬学部の卒業生は間違いに優秀との評判をいたるところで聞きます。永年にわたり代々培ってきた財産が今後の卒業生にも好影響を及ぼし、好循環となって継続されることを祈っています。60周年関係の催しについては大学が詳細を検討している段階であり、同窓会としても協力する予定です。

次は、薬学部校舎の移転に関する件です。既に新聞報道でもあったように、2025年を目途に、葛飾キャンパスに移転する計画が決定されています。現在、具体的な方針、ステップなどを討議していると伺っております。

同窓会の動きに関してもご報告致します。

皆さんご存じの「実践社会薬学講座」は、1991年に開講され、同窓会として長年にわたり、学生さんの就職先選択の判断のための一助として貢献してきました。2016年からは大学側の主催の講座となりました。さらに昨年からは「就職懇話会」として、卒業生から生の声を聞く時間が設けられました。昨年は『人生の岐路にあたり、どのように決断し、困難を乗り越えたか?』というお題で講演を行い、その後、小グループに分かれて企業や官庁の仕事の紹介を行いました。本年度は、企業・官庁・病院の仕事の紹介の講演と昨年同様の小グループでのQ&Aを行いました。Q&Aでは時間がオーバーしてしまうほど、盛り上がり、学生さんにとって有意義な時間と

なりました。

名簿システムに関しても、時代に即した改革を行っています。従来の冊子による名簿は、費用面、個人データ保護の観点から問題があり、Web方式に変更しました。最新の名簿の閲覧は同窓会ホームページにアクセスして頂く必要があります。名簿を閲覧・修正するにはパスワードが必要です。皆様方には過去2回、仮パスワードを送付していますので、是非ともログインして頂きたくお願い致します。

「ふなかわら」の発行タイミングも今回の号から「秋」に変更致しました。従来の「春」発行の場合の問題点、すなわち、夏に開かれた同窓会総会の決定事項等の内容（例えば同窓会会長の交代）が、翌期になって漸くお伝えできる状態となる、という欠点が改善されます。

従来「同窓会幹事会」と称して、会長・副会長・学年幹事が年4回集まり、各種案件の討議をしていました。この度、学年幹事のみでなく、誰でも参加できるように、という趣旨で名称を「同窓会定例会」に改めました。同窓会は異業種で働く同窓生同士の情報交換という意味でも役に立つ場ですので、同期を誘って参加して頂きたくお願い致します。

薬剤師を取り巻く環境も現在進行形で大きく変化しています。この4月には、厚労省は「調剤業務のあり方について」と題する通知を発出して、薬局では薬剤師でなくとも処方箋に指定された薬を棚からとることができるようになりました。今後AI（人工知能）の導入が益々加速され、薬剤師にしかできない仕事は何か、等の討議がされることと思います。そういう時代にあっても、やはり生き残る薬剤師は、各種勉強会に出席などして自らを変革して、生涯成長していこう、という意欲を持った人であると思います。同様なことは、企業や官庁に勤める方々全員に言えることと思います。進化論で有名なチャールズ ダーウィンは言っています。

『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。』

唯一生き残ることが出来るのは、変化に対応できる者である。』

今後とも同窓会の活動にご理解ご参加を頂きたく、よろしくお願い致します。

学部長挨拶

薬学部60周年とこれから

薬学部長 宮崎 智



2018年10月に平成最後の薬学部長となりました宮崎です。同窓生のみなさんには、生命創薬科学科主任としてご挨拶をさせていただいておりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。

今春に、本薬学部の卒業生が1万人を超えました。また、2020年には、薬学部は60周年を迎えることとなります。多くの私立薬系大学・学部が6年制の1学科となる中、本学は、私学では唯一、6年制薬学科と4年制生命創薬科学科の定員が同数かつ最大規模（共に100名）であることを維持してきており、現在もこの体制を変える必要はないと判断しています。

東京理科大学全体で学部学科再編の議論があり、基礎工学部は長万部を閉鎖するとともに、2学科を増やして、先進工学部として、工学部も工業化学科が葛飾キャンパスに移転し、すべての学科が葛飾に集合する予定です。薬学部は、HPでも紹介されているように、2025年度に葛飾キャンパスに移転する予定で、今年度から薬学新校舎の設計が本格化してきました。一昨年度より開設されました神楽坂校舎に医療薬学研究教育センターを起点として、神楽坂キャンパスでの薬学部の拡張が認めていた

だけのような提案ができると良いと考えています。

薬学が6年制に移行して早や12年の時が過ぎました。6年制教育の柱と位置付けられていた、長期実務実習や薬学コアカリキュラムの実践も落ち着き始め、いよいよ各大学の特徴教育にしのぎを削ることになります。薬学科においては、薬剤師資格を最終ゴールとすることのない教育研究による多様な人材の育成を、また、生命創薬科学科においては、全国で毎年200名ほどの枠となってきたともいわれる創薬研究者の1割を供給する研究者（博士取得者）の育成等を具体的な目標と位置付けています。このために、現在は全体で、40名程度の博士課程在学者数を60～70名程度に引き上げる工夫を考案中です。さらに、筑波大学、順天堂大学、東京医科歯科大学、自治医科大学、獨協医科大学や横浜医科大学の医学部との連携、ハワイ大学やマレーシア大学を基点とした交換留学制度を活用した国際性の向上にも期待を高めています。

60周年の節目を迎えつつ、学部学科再編に伴う移転等、期待と課題が散見されてはおりますが、同窓生の方々からは、ますますのご助言とご支援を頂ければ幸いです。



令和2年度東京理科大学薬学部 同窓会総会および講演会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、来年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

令和元年10月

東京理科大学薬学部同窓会
会長 上村 直樹

■日 時：令和2年7月18日（土）14：00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ（軽子坂MNビル）

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

●同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次 第：14：00～15：00 同窓会総会

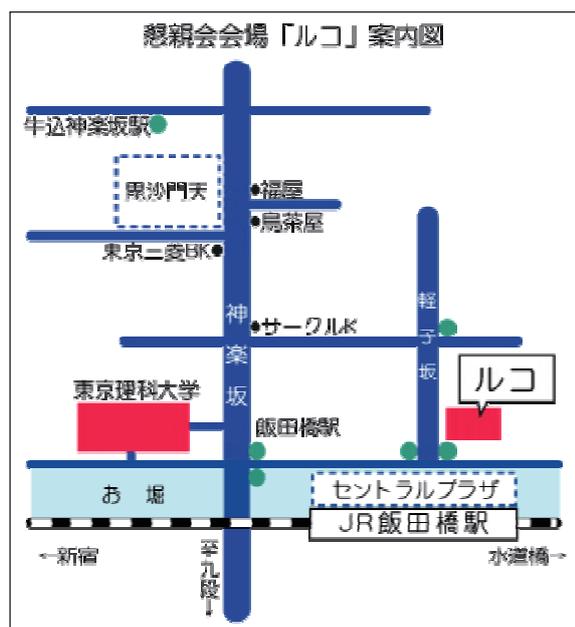
15：00～17：00 特別講演会

（財）日本薬剤師研修センター認定（1単位）

講演の内容につきましては、随時ホームページに掲載します。

17：00～19：00 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円



【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

【お問合せ】

東京理科大学薬学部同窓会 事務局

278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

FAX：04-7121-4531

E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【担当】25期幹事

同窓会ホームページをリニューアルします

同窓会ホームページは、もっと見やすく利用しやすいホームページを目指して、リニューアル作業を行っております。数ヶ月のうちには、皆様に新しいホームページをお届けできると思います。ご期待ください！

現在リニューアル中ですが、これまでのホームページは今まで通りご利用になれます。ぜひアクセスしてください。

同窓会ホームページ <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

WEB名簿システムについて

東京理科大学薬学部同窓会では、5年ごとに同窓会名簿を発行して参りました。しかし、冊子版（2000年度版以前）は製作および保管廃棄にも経費が高いため、CD-ROM版（2005、2010年度版）を採用いたしましたが、短期間でパソコンのOSが更新していくため、数年で使用することができないことが判明しました。

そこで、同窓会幹事会におきまして、今後の名簿について審議した結果、WEB名簿システムを採用することになり、すでに運用を開始しております。このシステムは、同窓会事務局が行っている会員管理機能と名簿機能の両者を併せ持つシステムです。会員個人がインターネット上で登録情報を更新し、その個人情報の公開の可否を項目毎に選択することができるため、会員の情報開示の意志に沿ったシステムとなります。システムの構築時に若干の費用が掛かりますが、半永久的に使用することができ、その後の経費もサーバー管理料と保守管理料程度で済みます。

このふなかわら31号に、WEB名簿システムを利用するときに必要な会員コードとパスワードを同封しております。これまでこのシステムをご利用でない方は、なるべく早めにこのシステムにログインしていただき、パスワードの変更、登録情報の確認、情報公開の可否を登録していただけますと幸いです。

今後、同窓会からのお知らせ等は登録いただいたメールアドレスに配信する予定ですので、メールアドレスをお持ちの方は必ずご登録下さいますようお願いいたします。もしお持ちでない方は、連絡がとれるご家族等のアドレスでも結構です。

WEB名簿システムは、同窓会ホームページ<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/> からご利用になれます。



令和元年度同窓会通常総会について

令和元年7月20日（土）の午後、インテリジェントロビー・ルコにおいて、令和元年度通常総会が開催されました。出席者は総勢43名でした。総会担当は第24期生が務め、司会の佐藤修一氏の開会宣言、上村直樹会長の挨拶があり、次いで、安藤秀一氏（22期）が議長に、高尾圭一氏（45期）、高橋悠一氏（52期）が議事録署名人に指名され、事務局の小林さと子氏が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|------------|
| 第一号議案 | 平成30年度事業報告の件 | 第四号議案 | 令和元年度予算案の件 |
| 第二号議案 | 平成30年度決算報告及び監査報告の件 | 第五号議案 | 会則改正の件 |
| 第三号議案 | 令和元年度事業計画案の件 | | |

以上の議案審議終了後、佐藤氏により閉会宣言がなされました。

24期 担当幹事

第一号議案

平成30年度事業報告

- 同窓会会報「ふなかわら」第30号の発行
平成30年6月
- 同窓会通常総会の開催
平成30年7月21日
神楽坂キャンパス3号館6階362教室

特別講演会

「薬剤師に必要なホスピタリティとは」

講演者：東京理科大学薬学部 教授
株式会社ファーマミック 代表取締役
上村 直樹 先生（23期）

「バイオシミラーの開発」

～バイオシミラーとはどのようなものなのか、に始まり、その開発の流れについて新薬開発と対比しながら説明し、最後に演者の考える課題について紹介する～

講演者：JSRライフサイエンス株式会社 社長
野村 英昭 先生（23期）

懇親会（PORTA神楽坂6階 理窓会倶楽部）

- 地区交流会の開催
平成30年9月23日
第51回日本薬剤師会学術大会（金沢）に合わせて、交流会開催 参加者は、21名
- 新会員勧誘 資料を261名に送付 平成30年1月25日
会費納入は、平成31年3月卒業生（56期）40名、
大学院修了者 2名
- 卒業生・修了生全員（264名）に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈

平成30年10月、平成31年3月19日

- 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
平成31年3月19日

- 同期会開催（1、4、12、15、16、19、23期）
同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈（1、4、15、19、23期）

- ホームページのメンテナンス
- WEB名簿システムのメンテナンス
- 幹事会の開催 平成30年4月14日、平成30年7月21日
平成30年10月20日、平成31年2月2日
- 正副会長会の開催 平成30年6月9日
- 大学関連

- ・理窓会ホームカミングデーへの協力（平成30年10月28日）
- ・理窓会関連団体交流会・懇親会（第7回）への参加（平成31年3月16日）
- ・医療薬学教育研究支援センターへの協力
- ・薬学部キャリア教育への協力（平成30年7月7日）
- ・学生向け就職懇話会の開催など学生に対する支援

第二号議案

収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
両立金費	2,907,000	人件費	710,256	アルバイト代
預金利息	473	通信費	13,026	まくらインターネット
協会懇親会参加費	200,000	諸案内状印刷送達費	1,443,685	ふなかわら印刷送達(省原印刷)
地区交流会懇親会参加費	105,000	郵便代(宅配代も含む)	47,192	郵便代・宅配代
寄付金	31,000			
理窓会より贈金祝い金	10,000	講演会謝金	25,000	講演謝礼
賛助より繰り入れ	254,479	総会経費	1,523	会場費・研修シール代
		総会懇親会費	238,820	
		同窓会/プリント作成、送付	97,288	
		卒業懇親会初会	100,000	
		卒業記念品代	181,440	記念スパーテル280本
		交際費	30,780	事務課他 お中元・お歳暮等
		同期会協賛金	150,000	5期分(1期4期15期19期23期)
		地区交流会懇親会費	147,280	
		文具・事務経費	48,552	名刺代、郵便料など
		ホームページ維持費	80,000	
		WEBシステム維持費	80,000	
		理窓会関連団体交流会懇親会費	6,000	
		理窓会ホームカミングデイ	10,000	
		雑費	6,000	理窓会会報1月号
		祝金	10,000	
		学生会費2件	60,000	医療薬学フォーラム、日本薬学会
		雑費	63,000	返金(重積会費等)
合計	3,507,952	合計	3,507,952	
資産内訳				
郵便局振替口座	466,199			
定期預金(三菱UFJ銀行)	4,530,685			
普通預金(三菱UFJ銀行)	4,015,142			
普通預金(みずほ銀行)	4,732,224			
ゆうちょ銀行	2,370,010			
現金	285,509			
	16,414,769			

第三号議案 令和元年度事業計画案

- 同窓会通常総会の開催 令和元年7月20日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「薬剤業務に基づく臨床研究の実践」

講演者：愛知学院大学 薬学部医療薬学科
臨床薬物動態学講座 教授
松浦 克彦 先生（25期）

「Pharmacy compounding services
- 薬剤師の根っこ」

講演者：静岡県立大学薬学部薬学科
臨床薬剤学 准教授
宮崎 靖則 先生（24期）

懇親会

- 同窓会会報「ふなかわら」第31号の発行

2. 臨時総会 **定例会幹事会**が必要と認めたととき及び
2割に当たる正会員が特に開催を請求したとき。

(定例会幹事会)

第12条 **定例会幹事会**は、会長、副会長及び、幹事、
会員、準会員、特別会員及び会長が認める者が
参加でき、で構成し、必要に応じて定期的に会
長がこれを招集する。なお、幹事会に会員は出
席することができる。

2. 本会の目的を達成するために必要な事業につ
いて検討を行い、実施するものとする。

(正副会長会)

第13条 正副会長会は、会長及び副会長で構成し、**会
務の重要事項について議論するために**、必要に
応じて会長がこれを招集する。なお、会計担当
幹事、監査役および顧問は必要に応じて、会長
が召集する。本会は会長の出席と2名以上の副
会長の出席をもって成立する。

(会議の議決)

第14条 総会、**幹事会及び正副会長会**の議決は、出席
正会員の過半数の同意をもって成立する。可否
同数のときは議長が決するところによる。なお、
正副会長会及び定例会の議決は全体的合意で行う。

(総会の議長)

第15条 総会の議長は総会において正会員の中より選
出される。

(定例会幹事会及び正副会長会の議長)

第16条 **定例会幹事会及び正副会長会**の議長は、会長
がこれにあたる。

(総会の承認事項)

第17条 次の事項は総会の承認を得なければならない。

1. 会長・副会長・会計担当幹事・監査役の選任
2. 事業計画及び収支予算
3. 事業報告及び収支決算
4. その他**定例会幹事会**及び**正副会長会**が必要と認
めた事項

(会議の記録)

第17条の2 議長は各会議における経過について、こ
れを記録しなければならない。

第5章 庶務及び会計

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌
年3月31日に終わる。

(経費)

第19条 本会の経費は原則として会費及び寄付金、そ
の他をもってこれにあてる。

(会費)

第20条 会費は、年会費2,000円とする。終身会員の会
費(終身会費)は50,000円とする。ただし、特
別会員に会費納入の義務はない。

なお、会員の一親等親族及び会員の配偶者の、
年会費及び終身会員の会費は1/2とする。

第20条の2 卒業前(大学院生も含む)の会費の一括
納入に関しては以下のように扱う。

10年会費 18,000円(卒業後は20,000円)

終身会費 30,000円(卒業後は50,000円)

第6章 会則の改正

(会則の改正)

第21条 本会則の改正は、正会員がこれを必要と認め
た場合、改正案を**定例会幹事会**に提出し承認を
経て総会にはかることができる。この場合、総
会への提案者は**定例会幹事会**とする。

付 則

(平成15年7月26日改正)

会則は平成15年7月26日より施行する。

(平成16年7月24日改正)

会則は平成16年7月24日より施行する。

(平成17年7月23日改正)

会則は平成17年7月23日より施行する。

(平成25年7月27日改正)

会則は平成25年7月27日より施行する。

(令和元年7月20日改正)

会則は令和元年7月20日より施行する。

平成30年度同窓会通常総会について

平成30年7月21日(土)の午後、東京理科大学神楽坂キャンパス3号館362教室において、平成30年度通常総会が開催されました。出席者は総勢42名でした。総会担当は第23期生が務め、司会の佐藤薫氏の開会宣言、上村直樹会長の挨拶があり、次いで、武田直子氏(16期)が議長に、若松正克氏(26期)、真野泰成氏(34期)が議事録署名人に指名され、事務局の小林さと子氏が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

第一号議案	平成29年度事業報告の件	第四号議案	平成30年度予算案の件
第二号議案	平成29年度決算報告及び監査報告の件	第五号議案	顧問承認の件
第三号議案	平成30年度事業計画案の件		

以上の議案審議終了後、佐藤氏により閉会宣言がなされました。

23期 担当幹事

第一号議案 平成29年度事業報告

1. 同窓会会報「ふなかわら」第29号の発行
平成29年6月
2. 同窓会通常総会の開催
平成29年7月22日
インテリジェントロビー・ルコ
特別講演会

「医薬品の新薬開発における品質・製造評価」

講演者：第一三共株式会社 製薬技術本部
製剤研究所 所長
安藤 秀一 先生(22期)

「医薬分業の歴史と薬剤師を取り巻く環境からみた
これからの薬剤師

(国民・患者のために生きるとは)
 講演者：厚生労働省 医薬・生活衛生局
 医療機器審査管理課長
 磯部 総一郎 先生 (22期)

懇親会

3. 地区交流会の開催 平成29年10月8日
 第50回日本薬剤師会学術大会(東京)に合わせ、交流会開催(理窓会倶楽部)参加者は、48名
4. 平成29年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
 平成29年10月14日
5. 新会員勧誘 資料を307名に送付 平成30年1月26日
 会費納入は、平成30年3月卒業生(55期)38名、大学院修了者 3名
6. 卒業生・修了生全員(322名)に卒業・修了記念品(記念スパークル)を贈呈
 平成29年10月4日、平成30年3月19日
7. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
 平成30年3月19日
8. 同期会開催(4、5、7、12、22期)
 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈(5、7、22期)
9. ホームページのメンテナンス
10. 理窓会関連団体交流会・懇親会(第6回)への参加
 平成30年3月17日
11. WEB名簿システムの開始及びメンテナンス
12. 幹事会の開催(4回)
 平成29年4月15日、7月22日、10月21日
 平成30年1月20日
13. 正副会長会の開催 平成29年6月17日

第二号議案

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,799,000	人件費	674,002
		通信費	27,356
		諸案内状印刷送費	1,196,747
		郵便代(宅配代も含む)	43,791
預金利息	493		0
総会懇親会参加費	280,000	印刷部札	100,373
地区交流会懇親会参加費	228,000	金庫費・研修シール代・花代	256,885
寄付金	24,200	商品代金	114,082
資産より繰り入れ	1,072,375	総会懇親会費	100,000
		卒業記念品代	213,840
		交際費	29,160
		同窓会費貸金	90,000
		地区交流会懇親会費	198,300
		全国薬剤大学薬学同窓会協議会費	0
		文具・事務経費	33,264
		ホームページ維持費	60,000
		WEB名簿システム維持費	45,000
		WEB名簿システム作成費	1,134,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	2,000
		協賛会	5,000
		雑誌広告	6,000
		贈送料 6件	2,298
		雑費	84,000
合計	4,394,068	合計	4,394,068
資産内訳			
新設地庫等口座	1,602,199		
定期預金(三菱UFJ銀行)	4,930,200		
普通預貯金(三菱UFJ銀行)	5,615,071		
普通預貯金(みずほ銀行)	4,767,402		
ゆうちょ銀行	380,000		
現金	344,278		
	16,639,249		

第三号議案 平成30年度事業計画案

1. 同窓会会報「ふなかわら」第30号の発行 平成30年6月
2. 同窓会通常総会の開催 平成30年7月21日

神楽坂キャンパス3号館6階362教室

特別講演会

「薬剤師に必要なホスピタリティとは」
 講演者：東京理科大学薬学部 教授
 株式会社ファーマミック 代表取締役
 上村 直樹 先生 (23期)

「バイオシミラーの開発」

～バイオシミラーとはどのようなものなのか、に始まり、その開発の流れについて新薬開発と対比しながら説明し、最後に演者の考える課題について紹介する～

講演者：JSRライフサイエンス株式会社 社長
 野村 英昭 先生 (23期)

懇親会(PORTA神楽坂6階 理窓会倶楽部)

3. 地区交流会の開催 平成30年9月23日
 第51回日本薬剤師会学術大会(金沢)に合わせて、交流会開催
4. 新会員勧誘 資料を送付 平成31年1月
5. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品(記念スパークル)を贈呈 平成31年3月
6. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈 平成31年3月
7. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
8. ホームページのメンテナンス
9. WEB名簿システムのメンテナンス
10. 幹事会の開催 (平成30年4月14日、7月21日開催
 平成30年10月、平成31年1月を予定)
11. 正副会長会の開催 (平成30年6月9日)
12. 大学関連

- ・ホームカミングデー(理窓会)への協力 (平成30年10月28日)
- ・医療薬学教育研究支援センターへの協力
- ・薬学部キャリア教育への協力
- ・学生向け就職懇話会の開催など学生に対する支援
- ・その他

第四号議案

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
会費	3,000,000	人件費(アルバイト代)	700,000
総会懇親会参加費	200,000	通信費(モバイルインターネット、ウェブサービス等)	30,000
地区交流会懇親会参加費	200,000	印刷送費(ふなかわら)	1,500,000
		郵便代(宅配代も含む)	100,000
寄付金等	50,000	印刷部札	50,000
預金利息	5,000	協賛会費	100,000
資産より繰り入れ	400,000	総会懇親会費	200,000
		同窓会バンフレット作成・送付	100,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパークル)	200,000
		医療薬学教育研究支援センター(ふなかわら)	25,000
		同窓会協賛会(2期分)	95,000
		地区交流会懇親会費	200,000
		文具・事務経費	50,000
		ホームページ維持費	60,000
		WEB名簿システム維持費(維持費40,000)	100,000
		就職懇話会費	30,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	10,000
		学会等協賛金	10,000
		雑誌広告	50,000
合計	3,855,000	合計	3,855,000

第五号議案

顧問承認の件

1. 正副会長会において協議した結果、顧問として以下の者を推薦する。
 顧問候補者 11期 石井 甲一 氏

令和元年度同窓会講演会・懇親会について

令和元年7月20日（土）同窓会特別講演は、25期の愛知学院大学薬学部臨床薬物動態学・教授の松浦克彦先生と24期の静岡県立大学薬学部臨床薬剤学分野・准教授の宮寄靖則先生のおふたりにお話ししました。

松浦先生は「薬剤業務に基づく臨床研究の実践」という演題で、近年、AIの進出など薬剤師を取り巻く環境が大きく変化しており、今後、薬剤師の役割のひとつとして薬剤業務に基づく臨床研究の実践が重要であること、この臨床研究の実践には、業務関連の課題解決への取り組み（薬剤業務の効率化や質の向上など）と薬物治療の適正化への取り組み（エビデンス診療ギャップ、薬物療法の質の向上、エビデンス構築など）があることをお話しいただきました。ご講演の後半では、具体的に薬物治療の適正化への取り組みに関する松浦先生ご自身の事例を詳細にお話しいただき、聴講された方々も熱心にメモを取っていました。

宮寄先生は「Pharmacy compounding service -薬剤師の根っこ」という演題で、平成30年間における薬剤師を取り巻く環境の変化と今後の薬剤師が本来の役割を果たし地域の患者を支援するための医薬分業のあり方について、お話しいただきました。テクニシャンやAIの進出により、今後、薬剤師の業務は対物業務から対人業務に移行し、薬剤師にしかできない業務である調剤（薬剤師の根っこ）が非常に重要となること。ご講演の後半では、宮寄先生ご自身の具体的な調剤（自転公転式ミキサーを用いた造粒法）の事例をお話しいただき、高齢者や小児に対する薬剤投与に対して大きな貢献をもたらしていることをご紹介いただきました。

この特別公演の終了後、24期を中心に約67名が参加して懇親会が開催され、参加者は年代を超えて多くの方々と和気あいあいと交流を持つことで薬学部同窓の絆がより深まりました。

（24期 秋山 裕一）



1期～23期、25期以降



24期

平成30年度総会講演会報告

平成30年7月21日(土)に開催された同窓会第二部では、同窓会会長の23期の東京理科大学薬学部 教授、株式会社ファーミック 代表取締役 上村 直樹 先生から「薬剤師に必要なホスピタリティとは」という演題、また同じく23期のJSR ライフサイエンス株式会社 社長 野村 英昭 先生から「バイオシミラーの開発」という演題による特別講演が行われました。

上村先生には医薬品に関わる仕事をする上でのコミュニケーションの重要性についてホスピタリティの観点を踏まえてお話しいただきました。添付文書上の文字の色による視認性の相違からユニバーサルデザインの意義に言及され、またPTPの外観の差異が識別に及ぼす影響について述べられました。講演では一貫して聴衆に語り掛けられる口調で、まさに調剤の現場での問題解決に取り組まれている上村先生ならではの知見を臨場感をもって共有していただくことができました。

野村先生からはそもそもバイオシミラーとはどのようなものであるかを解説していただき、その開発の流れの概略および様々な問題につき諸外国における状況も紹介しながら、お話しいただきました。バイオシミラーという言葉については様々な媒体を通じて目にする機会は多いものの実態を知る機会が必ずしも無い中で、この講演を通じ包括的に情報を得ることができたと思います。

今年の特別講演では調剤の現場で患者さんと日々接する薬剤師の視点および新たな治療手段を提供していく企業人の視点の双方から貴重な話をうかがうことができました。薬学を学んだ者として如何に社会に貢献していくか、改めて考える良い機会になったことと思います。領域は違えどそれぞれの分野でご活躍されているお二人に知見を共有いただいたこと、また多くの皆様にご関心をお持ちいただき聴講いただきましたことを感謝します。

(23期 佐藤 薫)



1期～22期



23期以降

第6期生 卒後50周年記念同期会のご案内

拝啓

暑かった夏も終わり、朝晩は秋の気配を感じるこの頃ですが、お元気でお過ごしと思います。

皆様のところには豪雨被害の影響は大丈夫でしたか？被災地の方にはお見舞い申し上げます。

今年は、大学卒業後50周年記念の同期会を開催いたします。

50周年を機会に、6期生の同期会は最後にする予定です。

万障お繰り合わせのうえ、多くの方がご参加いただけますよう、ご案内いたします。

敬具

記

日時 2019年11月24日（日）

12時から2時間半の予定（その後の2次会も同じ会場です）

場所 市谷 アルカディア

JR、メトロ南北線、有楽町線、都営地下鉄新宿線市ヶ谷駅（A1-1 A-4出口から、徒歩 約2分）

参加費：10,000円（二次会含む）

2019年薬学部6期生同期会幹事：

竹上 昭（返信まとめ）携帯# 090-5501-6285

藤井幸子（企画担当）携帯# 090-6522-5221



第16期同期会のお知らせ

第16期卒の皆様、如何お過ごしでしょうか。さて、以下の要領にて現在同期会開催準備を進めております。

日時：2020年10月の土曜日 午後1時より

（ただし、10日は除く）

場所：日本工業倶楽部（東京駅北口）

あるいは飯田橋ホテルエドモント

日程・開催場所の決定は本年10月～11月頃の予定です。決定次第、メール、葉書、電話でご連絡いたします。

なお、これまで過去にメールで同期会開催連絡を得ておらず、今後メールでの連絡をご希望の方は事務局（メールアドレス：jimu@ridaiyakudo.gr.jp）までご連絡ください。メールの件名に【第16期同期会メール連絡希望】とご記入いただければ有り難いです。

多くの皆様のご出席をお待ちしております。

幹事：

武田（服部）直子、水倉（荒西）美恵子、大谷（山崎）佳子、室橋（清水）宏子、富塚（河田）朋子、河部秀男、石毛徹夫、塩入淳一、石川弘



第19期同期会のお知らせ

昨年に続き、19期の同期会を開催致します。

昨年は、学生時代を思い出す懐かしの「春波」で開催しましたが、今年は、女子人気が高い今風神楽坂のおしゃれなところで。

(昨年の同期会報告は、別ページの開催報告を参照ください。)

- ・今回も、書面送付による皆様への一斉連絡は致しません。
- ・周囲の連絡のつく方への情報共有及びお誘いをよろしくお願い致します。

7月に開催されました総会や、他期の同期会でも、期ずれを含め、期をまたがっての参加者も増えています。

当初より、19期については、入学時、机を並べていた方々にもお声掛けをしているところです。

継続して参加をお誘いいたします。

よろしく願いいたします。



以下、開催概要（予定）です。

■日時 令和元年（2019年）10月27日（日）17時開宴予定
（理窓会ホームカミングデーに合わせた開催日にいたしました。理窓会ホームカミングデーについては、本誌の該当頁あるいは
URL: <https://tus.alumni-news.jp/hcd/> を参照ください。)

■場所 神楽坂 ラクレット&フォンデュ フロマティック
東京都新宿区神楽坂2-10-23
TEL: 03-3267-1717
URL: <http://www.fromatique.jp/>
（飯田橋駅より 神楽坂へ向かい 紀の善の角を右にまがった通り中ほど左側です。）

■会費 5千円程度（予定）

■申込 会場確保の都合がありますので、事前にお申込みをお願い致します。

【申込期限】令和元年（2019年）10月14日（月・祝）

【申込方法】幹事 小嶋知夫

tomkjm@mud.biglobe.ne.jp

小川（大島）恵津子

oechan@live.jp

まで、メールにてご連絡ください。

参加以外のご伝言、ご連絡も受け付けております。

19期幹事：

小川（大島）恵津子、小嶋知夫、鈴木康正、高梨契典、長谷川俊雄、山内（阿部）のり子

放射関係研究室同窓会のお知らせ

来年の2020年東京オリンピックの後になりますが、放射関係研究室（薬学部）同窓会開催のご案内を致します。

■日時：2020年（令和2年）10月4日（日曜日）
13：00～15：30
（受付開始12：30、解散16：00）

■場所：家の光会館 飯田橋レインボービル2F
東京都新宿区市谷船河原町11番地

■電話：03-3260-4791

■会費：7,500円（予定）

後日、メールまたはハガキにてご案内致します。お誘い合わせの上、ご参加下さい。

連絡先：中田義禮（6期）

e-mail：nakadays@jcom.home.ne.jp

幹事：中田義禮（6期）

2018年度地区交流会報告

2018年度の地区交流会が日本薬剤師会の学術大会に合わせて実施されました。その参加報告をいたします。場所は金沢の老舗の葵寿でした。同窓会会長の上村教授から本学の状況報告の後は、金沢の海の幸を中心とした料理を頂き参加者は皆満足されていました。いつものように参加者より近況報告があり、金沢近郊より集まった方も旧交を温められていました。サプライズで石川県薬剤師会中森会長の突然の訪問があり、非常に場が盛り上がりました。

毎回参加することを楽しみにして来られる同窓生の方も多く、非常に有意義であったことを報告させていただきます。

(30期 水 八寿裕)



第23期同期会報告

2018年7月21日、平成30年度の同窓会総会後に、インテリジェントロビー・ルコにて第23期の同期会を卒業後初めて開催致しました。同窓会事務局から第23期同期生の住所シールを提供いただき、住所が解かっている方々にはハガキで開催案内を連絡致しました。ご返事は多くの方々から頂きましたが、残念ながら日程が合わないという方も多く、最終的には同期31名、同窓会幹事会の方々のご参加をいただき、総勢35名の同期会となりました。

32年ぶりの再会ということで、顔と名前が一致するのに時間が掛かってしまう方もいらっしゃいましたが、皆さん、どこかしら学生時代の面影を残しておられ、乾杯後には既に打ち解けた雰囲気となりました。一人ずつ近況を含めてお話をいただくと、あの時実はあんなことがあった等の初めて聞く話があったり、しゃべりだしたら話が止まらない方もおられ、全員のお話が済んだ処で終了時刻となっていました。「また、是非集まりましょう！」ということで楽しいひと時は終了致しました。

ご参加いただいた中には、以前から定期的にグループで集まっているという方もいらし

て、ご協力をいただけるとのことでしたので、今後は連絡が付く方々から輪を広げ、少しずつでも多くの同期が定期的に会える機会を作って行きたいと思いました。

ご出席いただいた皆様、今回は残念ながら欠席となりましたがご返信・ご連絡を頂きました皆様のご協力に感謝致します。

23期 中村 宏



第15期同期会報告

2年に1度開催している15期の同期会を平成30年8月4日（土）に理窓会倶楽部6階において開催いたしました。

今年は、大型台風が幾度となく襲来して前の週の7月28日土曜日には最終打ち合わせの予定でしたが、台風のため幹事全員の集合がかなわず、高橋君と2人で東京駅の構内での打ち合わせとなりましたが、今回は5回目という事もあり無事に打ち合わせを済ませ、台風の中無事帰宅することが出来ました。

しかし当日は、好天に恵まれ、今回の参加者は一次会が34名の参加で、毎回参加している同期と新しい参加も

多数いて大変盛り上がった同期会になりました。

二次会は恒例の「おでん屋せつ」で開催しましたが、いつも通り多くの参加があり、あの狭い店内にどうしてこんなに入れるのかと、今回は22名の参加がありました。ただ残念なことに2019年で「せつ」は閉店という事で、次回の同期会の二次会はここで開けないというさみしい思いが残りましたが、2年後の15期同期会の開催を楽しみにお開きとなりました。

幹事：日向章太郎、高橋正史、菅原伸治
和田浩志、長谷川富喜子、谷口隆雄



第19期同期会報告

平成30年8月26日に、総会幹事学年の際の同期会以来、久々に開催しました。

案内期間は短かったものの、メール連絡を駆使したこと、開催時期を変更したこともあり、遠方からの参加者もいて、出席者19名。今回は、群馬県や愛知県から参加いただいた方、また、初参加の方もいらっしゃいました。

昔話に花が咲いたのはもちろんですが、初参加の方々との近況報告やビジネスの相互連携話も出て、盛り上がりました。意外に風貌が変わっても昔のイメージが蘇り、すぐに話が續くのはさすが同期。夕刻開始ではありましたが、お店にもご配慮いただき、十二分に楽しい時間を過ごしました。「機会が持てれば毎年」という声も上がり、遠方の方の再来もお願いして宴を終了しました。

開催場所は、神楽坂の裏「鉄板焼・お好み焼き 春波」。古い年代の一部の方には、薬研、クラブ、縦割りコンパ等で、懐かしい名前かもしれませんね。かつて、薬学部が神楽坂にあり、その時代に散々お世話になったとのお話をしたところ、日曜日ということもあり、一階席を全

面貸切、時間もそれなりに自由にさせていただきました。懐かしいと思われた方は是非。

最後に、今年も同期会を開催予定です。同期会開催予告の頁を参照ください。

(19期 小嶋知夫)



第4期同期会報告

4期生の同期会を2018年9月9日（日）にPORTA神楽坂6F理窓会倶楽部で行いました。4期生同期会は、3年前（2016年）の会で、はずき会（女性だけの会；毎年開催していた）と同期会（数年ごとに開催していた）を統合し、新たな体制で動き出しました。

「元気なうちにできるだけ多く集まる機会を持ちましょう。」という趣旨で、毎年開催の方向で動いています。

今年は、25名が参集し、若かりし頃のこと、近況などを語り、短くも濃密な一時を楽しみました。同期生は、後期高齢入り目前ですが、現役で仕事を継続している方、趣味を追求している方、団体活動などに勤しむ方など、概ね元気な様子でした。

一方、今回の会を準備する過程で、この1年間に3名の同期生が逝去されたとの哀

しい知らせをご親族からいただきました。ここに、謹んでご冥福をお祈りする次第です。

来年も9月8日に同期会が予定されています。皆様と元気で再会できますことを楽しみに。

（2018年度幹事 幡野千丕子、吉本吉彦）



第12期同期会報告

平成30年9月22日（土）東京理科大学理窓会倶楽部（PORTA神楽坂）にて12期同期会を開催いたしました。皆様、親の介護や孫のお世話に忙しい年齢になっていますので、毎年開催させて頂くことにより、その年に参加できる方が集まれる同期会になりました。また各地方での同期会開催も始まりました。昨年山口で開催し今年は、松江で開催して頂きました。その地方の素晴らしさにふれ、同窓の絆を深めるとも良い機会になっています。これからもどちらの同期会も継続していきたいと考えています。



♪♪ 松江同期会 ♪♪

9月22日の東京での同期会には、鳥根のお土産持参でかけ、参加の呼びかけをおこなったり、案内文を事前に送ったりした甲斐があり同期14名、地元鳥根の先輩後輩3名、家族3名 合計20名の参加で、松江の老舗料亭皆美館で開催しました。卒業以来40数年ぶりに会う友もいて、懐かしく、大変楽しいひと時を過ごしました。旬の松葉ガニ中心にのどぐろ、名物鯛茶漬をいただきながら。翌日は観光バスで雪の足立美術館、ぼたんの由志園など松江近郊を巡り、昼食は出雲そばを堪能していただきました。参加者の方には鳥根が初めての方もいらして、こういう機会があれば、皆さんも観光ついでに同期会に参加しやすいのではと思いました。



1月26日 松江 皆美館にて 幹事 茶山さん

第16期同期会報告

2018年9月30日（日）、ホテルメトロポリタンエドモント「波光の間」にて、第10回の同期会を開催いたしました。定例の同期会はオリンピックイヤーに開催していますが、今回はオリンピックとオリンピックの間の中間同期会という位置づけです。このところ4年は待てないとの声が多く、2年ごとの開催になりつつあります。

前日に本州に上陸した台風24号が東京に向かってくる中、幹事団としても中止するかどうか大変迷いましたが、当日の朝、風はあるものの雨はほとんど降っていなかったため、予定通り12:30から決行いたしました。遠方からの出席予定者の中には台風の影響を考慮し、残念ながら欠席を余儀なくされた方もおりましたが、それでも32名の方々が集い2時間半の楽しいひと時を過ごしました。

定年を過ぎると話題はもっぱらお孫さんや自分自身の健康面に集中しますが、話が進むにしたがって学生時代の話

題に移っていきました。幾つになっても学生時代の思い出は、強く記憶に刻まれているものだと思います。定番となった全員参加の二次会はさすがに中止し、皆、話し足りない思いを残しながら帰路につきました。

次回の同期会はいよいよ2020年東京オリンピックの年です。
(16期幹事一同)



第1期同期会報告

理科大学薬学部第1期生の同期会が、平成30年10月28日（日）12:00に、アルカディア市ヶ谷で開催されました。私達の時代の恩師はすべて鬼籍に入られておられたので、出席者は同期生だけで、44名でした。両親の介護や配偶者の介護で家を離れられなかった方や自身の体調不良で欠席された方が多かったようです。開催日の当日に入院された方もおられました。会合は亡くなられた17名の方々に対する黙とうから始まり、最も遠方の北海道から出席された佐治さん（旧姓白土さん）による乾杯の発声の後、宴会が始まりました。久しぶりに出席された方々からの

近況報告のお話で盛り上がりました。最終時間の午後4時半前に集合写真を撮り、次回来年の再会を期して解散となりました。次回は、来年の10月23日（日）が候補に挙がっています。

(記 黒崎浩己)



第24期同期会報告

令和元年7月20日（土）、私が記憶している限り昭和62年3月の卒業以来初めての、学部同窓会が開かれました。これも理大薬学部同窓会総会の幹事が24期に回ってきたおかげです。（ご存知ない方もいらっしゃると思いますが、理大薬学部同窓会総会の幹事は一年毎に下の学年に繰り下がっていくのです。今回24期の我々が担当しましたので、来年は25期の方が担当ですよ！）

当日は幹事会、総会に続き同級生の「先生」2名の講演があり、その後諸先輩・後輩を交えた懇親会を経て、会場をルコから理窓会会館に移し、いよいよ24期の同期会の始まりです。

毎年のように会っている顔もあれば卒業以来数十年ぶりに会わせる顔もあり、すぐに当時のあだ名が出る人もあれば名札を確認してやっと思い出せる顔もあり…でも卒業から30年以上の月日が流れているというのに、同級生という繋がりはあるという間に時間をあの頃に戻してくれますね…

50名以上の参加でしたので自己紹介の時間がとれず、司会者が出席番号順に旧姓で名前を呼び、「はーい」と挙手してもらう様はまるで当時の授業の出欠確認よろしく、皆さん苦勞したであろうドイツ語の授業のようでした。

予定の2時間はあっという間に過ぎ、最後に急いで集

合写真を撮り、関東一本締めでお開きにしたものの皆さん名残惜しくてなかなか解散できず、司会者が「撤収ー！！」と呼び掛けてやっと会場を後にしたのでした。でも都会の土曜の夜はまだまだ賑やかで、いくつかのグループに分かれ神楽坂のネオンに吸い込まれていったのは言うまでもありません。

最後になりますが、このようなステキな機会を与えてくださった同窓会幹事の諸先輩・後輩の皆さま、24期幹事の秋山くん、修ちゃん、本当にありがとうございました。大勢の連絡先を集めることができたので、今回都合で参加できなかった人のためにも、数年後の還暦の節目あたりでまた旧交を温められたら、と思います。幹事さま、またよろしくね♪

（当日のお手伝い幹事：五十嵐 澄、金森 道枝）



「お久しぶりです神楽坂・薬化学講演会 原博先生の喜寿お祝い会」ご報告

「お久しぶりです神楽坂・薬化学講演会 原博先生の喜寿お祝い会」が平成30年4月21日（土）にインテリジェントロビー ルコにて行われました。当日は講演会と懇親会の二部構成で行われ、星野修先生、原博先生、小笠原弘道先生、石崎幸先生、海保房夫先生、そして85名の同窓生が集まり旧交を温めました。

講演会の演者は、欧州医薬品庁での勤務経験をもち薬剤学分野で活躍されている野村香織さん（34期）、離島の診療所で薬剤師をしている中村裕子さん（21期）、長野に移り住み地域で伝承されているクロモジ茶の魅力を発信している府川公広さん（18期）、スポーツファーマシストの中心的存在である對崎利香子さん（19期）、製薬企業で新たな医療モダリティを探索している柏木俊彦さん（1994院）の5名と多様性に富むものになりました。また甲本照夫さん（12期）がギター弾語りを披露してください、多才な卒業生が多い旧薬化学研究室ならではのものとなりました。原先生にも「健康食品に学ぶ」というタイトルでご講演頂きました。「きちんと有機化学を学んだ薬剤師だからこそ出来ることがある」との現役時代と変わらない熱意溢れる講演に学生時代を懐かしむとともに、先生から受けた薫陶を胸に薬学の発展に取

組む決意を新たにしたいと時となりました。

懇親会は、原先生が3月に喜寿を迎えられたことをお祝いする会として、小森谷聡さん（25期）、田崎慎一さん（25期）の司会のもと、和気藹々とした雰囲気の中に進められました。皇居マラソンやバスケットボールをしていた賜物か、座ることなく談笑されている先生の姿はとても印象的でした。それぞれに喜寿を祝したり歓談したりしているうちに時間はあっという間に過ぎ、参加者を代表して星信温さん（31期）、初澤裕己子さん（31期）から記念品と花束を贈呈し、楽しい会はお開きとなりました。

新しい時代は人生100年と言われています。これからも先生が健やかであられることを願ってやみません。

中村 洋（29期）



放射関係研究室同窓会報告

放射関係研究室の同窓会を平成30年9月30日（日）JR飯田橋駅に近いルッコリーナ/Luccolinaにて開催しました。

久保寺昭子先生が亡くなられてから10年目、研究室同窓会を2年毎に開き今回は5回目です。1期生から32期生18名の参加者でした。女性の皆さんは、現役として働いておられる方がほとんどです。男性も現役バリバリのほかに、年金暮らしで悠々自適の人もみうけられました。

参加者全員の近況報告の後、歓談会ではいつものごとく各々で仕事の情報交換、名刺のやりとりなど働き盛りの現役仕事人の場になります。

このレストランはイタリアから直輸入した自社ワインが美味しいとのことでしたが、みんなお話に夢中になりワインのことをすっかり忘れてしまいました。

小さな研究室の集まりだけに和気あいの雰囲気です。初めて参加する

人が毎回みられます。みんな健康で元気に活動していることを心に刻んで、次回の幹事を決めて散会しました。

（幹事 佐々木正大）



薬学研究会 医薬品合成班 OB会

2018年10月6日 薬学研究会 医薬品合成班 OB会がPORTA神楽坂6F理窓会クラブにて開催されました。本会は2018年4月に18期の古迫さんの呼びかけでOB会のための幹事会を結成して、薬学部同窓会事務局のお力添えのもと、名簿の確認から始まり約6ヶ月をかけて準備し実現しました。実に56名（10期から26期）が1次会に参加していただきました（ちなみに、32名が2次会（竹

子）まで参加していただきました）。おいしいお酒をいただきながら学生時代の写真映写会や各学年の近況報告、学生時代の思い出話に花が咲き楽しいひと時がもてました。次回は4年後を基本としておりますが、オリンピックイヤーにとの声もあり早まる可能性もございます。今回参加できなかった皆様、乞うご期待。

（文責 22期 S. A）



理窓会ホームカミングデーに来ませんか！

第14回ホームカミングデーが、神楽坂キャンパスで開催されます。

メインテーマ：「自ら参加するHCD」 ～ Remember 理科大～

今年も、薬学部同窓会は「同窓出合いの広場」パールに参加いたします。また今年も、薬学部同窓会として部屋をご用意しております。皆様お誘いあわせの上、ぜひいらしてください。

記

開催日時 2019年10月27日（日） 12時～17時
開催場所 東京理科大学神楽坂キャンパス 「同窓出合いの広場」
○薬学部同窓会の部屋は、851教室になります。



ホームカミングデー 2018に出席して

10月28日神楽坂キャンパスで開催されたホームカミングデー 2018に、薬学部同窓会として出席してきました。当日は、上村同窓会会長（23期）、内村副会長（30期）、伊集院（25期）の3名で場所を設営し、同窓生の方がいつでも来て良いようにお待ちしております。飲み放題のワインを肴に昔話に浸るOB&OGの面々。残念ながら、日頃から幹事会で交流のある薬学部同窓会は静かな状態でしたが、田畑さん（16期）がふらりと来て下さいました。しばらく歓談していたのですが、卒業50年の式典に参加されていたOB&OGの方々が一気に集まってくださり、最終的には薬学部同窓会として総勢25名の方々に参加していただきました。その後、席の直ぐ横では理大OGである祥子さんのステージが始まり、歌を聴きながら語らうという事もでき、2018年のホームカミングデーは無事終了致しました。

2019年のホームカミングデーでは、薬学部同窓会として部屋を用意する予定です。より多くのOB&OGの方々に参加頂ければと思います。

記：伊集院 一成



近況報告

第一三共プロファーマ株式会社 代表取締役社長

伊澤 広純 (20期)



早いもので1985年に理科大薬学部修士課程修了後、三共(株)に入社して品川工場の製造課に技術スタッフとして配属されてから34年が経過し、令和元年に還暦を迎えることになりました。幸いにも薬学部と同じ研究室の同期には優秀な幹事がいてほぼ毎年のように同期会に参加させて頂いていました。一方、薬学部全体の同窓会には4年前の20期生が幹事の年に会社の後輩から誘われて30年ぶりに初めて参加し、今回の執筆に繋がった事は不思議な縁だと思っています。

その一方で、昨年9月に恩師である薬品物理化学教室の近藤保先生が逝去されたことは、大変残念な出来事でした。なぜなら、約2年前に研究室の同期で先生の米寿をお祝いした時には相変わらず学問への関心は高く、杖もつかずに歩かれていたので百歳までは大丈夫と思っていたからです。

常々サラリーマンは身体が資本だと部下には言っていますが、私は小さいころは身体が弱く日本小児科医会の初代会長を務めた内藤寿七郎先生に体質改善をして頂き、現在に至るまで大病をすることも無くここまで生きる事ができました。無事これ名馬との格言もありますが、今思えば新宿生まれの新宿育ちとして紙面には書くことが出来ない昭和の時代を反映するような波乱万丈の人生を歩んできた身としては、ここまで無事に過ごせたことが奇跡としか言いようがありません。

幸運にも昭和を30年、平成を30年、生きることができたので令和も30年生きて、最終的にピンピンコロリとこの世を去ることができれば大変満足です。

ところで、我々は科学の急激な進歩を実体験してきた世代でもあり、白黒テレビからカラーテレビ、首都高速

や新幹線の開通、ポケベルから携帯電話そしてスマートフォンなど、ITの革新的な変化の中でアナログからデジタル社会になるのを見て来ました。

また、東京オリンピックと大阪万博を2回も体験できる稀有な世代でもあり、新しい天皇陛下とは同級生であるなど、私の周りには多くの奇跡的な事象が溢れています。

これまでの人生の半分以上をサラリーマンとして過ごしてきましたが、今、振り返ると多種多様な経験をする事ができたと思っています。2007年に第一製薬と三共が統合して第一三共となり、私が17年間働いていた平塚工場は第一三共プロファーマという生産機能子会社となりました。統合時、私は第一三共のサプライチェーン本部に配属となり、2011年3月11日には東日本大震災における対応を余儀なくされ、福島第一原発事故の影響で小名浜工場の全従業員及び家族の東京への一時避難等にも取り組みました。

そして2012年に第一三共の品質保証責任者となり、インドのランバクシー社の品質保証システムの抜本的な改善活動に真摯に取り組みましたが、結局苦勞が報われないまま売却されてしまうという苦い経験もしました。

その後、2016年には第一三共が販売している医薬品・医療機器・再生医療等製品の総括製造販売責任者として三年勤め、12年ぶりに古巣の第一三共プロファーマに社長で戻ることになりました。残りわずかなサラリーマン人生を社長として働けることは大変幸せなことだと思っています。

ジャンナーの法則として知られるように1日や1年の長さの実感値はそれまでに生きてきた時間の長さに反比例します。即ち、20歳の時の24時間は60歳では8時間となり、あっというまに一日が過ぎていくということです。当たり前のことですが、人間は最後には100%死にます。

今後も科学の分野ではAI、量子コンピューター、再生医療及び遺伝子治療等、今まで以上に急激な速度で新たな技術が次々と現実のものとなり、近い将来には予知治療等により、人生150年時代が到来するかもしれません。

私も経営者としてサラリーマン人生の最終ステージの砂時計がリセットされたような感覚がしています。

任された4年間の任期を全うすべく経営者として当社で働く従業員は家族であるという理念に基づいた会社経営を心掛け、個人的には2020年の東京オリンピック及び2025年の大阪万博を楽しみたいと思っています。



近藤 保先生の思い出

11期 小暮 渉

近藤クラス

私が理大薬学部に入學したのは昭和45年(1970年)4月でした。

当時薬学部は「クラス担任制」が作られ、全学年を通じて数名ずつの学生に対して一人の教授が担任として、勉強の仕方、学生生活の指導・助言に当たることになっていました。新1年生が入學すると担任教授が決まります。私は「近藤クラス」の一員に加えて頂きました。4月、クラスの「新入生歓迎会」で先輩や担任教授との顔合わせがあり、この時が私と先生との初対面です。

年に一度か二度、学年の異なる学生たちが近藤先生を中心に集まり、茶話会のような雰囲気です。そのときには二次会と称して学生たちだけでビールを飲みに行くこともあり。ところが、1年生や2年生の中には未成年(満年齢が20歳に達していない)の学生もいます。後で先生からお叱りを受けました。先生ご自身が普段お酒を召し上がらないこともあって、先生は学生や若い人たちの飲酒には厳しかったことを覚えています。

ある時、「バンカラ」な男子学生がいても良いのでは、という話しになったことがありました。「ボロは纏えど心は錦」という風体で、言葉づかひもぞんざいでぶっきらぼう。でも気は優しく力持ち。夏目漱石「坊ちゃん」主人公の坊ちゃんや山嵐といったところでしょうか。先生は「男らしいことと粗野なこととは別だと思ひます」と一言。

そういえば先生は、学生に対しても「です、ます」という言葉を一貫してお使いになっていました。大学生は大人なのだと、一人前に扱ってくださったのか、大人であるべきだと教えてくださったのか。学生時代から今日まで五十年近く、私に対しても、いつも「です、ます」でした。今までに、先生が大声を出されたのを聞いたことはありません。

東京の下町浅草で育った私は、子どもの頃から両親にも近所の小父さんや小母さんにも、大声で叱られっぱなしでした。古典落語やお芝居に出てくる言葉遣いそのまま。それゆえ大学生になると、敬語・尊敬語・丁寧語・謙讓語など、日本語の言葉遣いに敏感になりました。話し言葉と書き言葉、口語体と文語体。なかなか上手くはなれません。

近藤先生の日本語はさすがに見事でした。これは学校で教えられたものだけではなく、子どもの頃からの家庭環境や戦前・戦後の社会機構の変化などを経験されて「身についた」ものではないかと思っています。経験が大切。これは後に英語を勉強していくうちに、日本語を正しく適切に遣えるようになることが、より大切だと気づきました。

ベレー帽とセーター

先生は細身の穏やかな表情の紳士です。大学の先生と

いうのはこういう人なのかと思ったことを覚えています。当時先生はベレー帽を愛用しておられましたので、私は芸術家のような勝手に決めていました。これは後に、国際コロイド学会でメンバーの先生方が、何か共通のものを身につけようと相談して決めたものだったと伺いました。

普段は白衣も薬服も着ていらっしゃいませんでした。夏はシャツ、秋から春はセーター姿です。白衣は元々ラボラトリー・コート Laboratory Coatが原型ですから、教授室で仕事をなさるときには不用ということでしょうか。実験室に入って来られてもセーター姿のまま、学生にいろいろアドバイスをされたり質問をされたり、学生の理解を助けて下さっていました。

卒研

4年生になると希望により卒業研究「卒研」を履修するのですが、私は近藤先生の「薬品物理化学研究室」に入れて頂き、界面科学、マイクロカプセルをテーマに研究室での生活を、卒業するまで送りました。

セミナーでは英語の文献“Chang: Artificial Cells”を輪読しました。4年生、大学院生、研究生が、各自に割り当てられた部分を予習(翻訳)しておき、順番に日本語訳を朗読するのです。ところどころ先生から誤りのご指摘や補足説明を頂きました。順番は必ず回って来ます。予習・復習をサボるとセミナーについていけません。

化学英語、医学英語といった専門用語の辞書を持っていなかった私は、この時に「医学英和辞典」を1冊買いました。巻末の索引を利用すれば、日本語から英語を、英語から英語・日本語を、引いて行くことができます。今風にいえば web surfing の辞書版です。これは卒業後にも英和・和英・英英辞典と同様に、大変に役に立ちました。

1年足らずの短い期間ではありましたが、中身の濃い、充実した時間を過ごすことができました。手書きでしたが卒業論文(日本語です)も提出することができました。確か大学院生の修士論文は英語で書くことが義務付けられていたと記憶しています。近藤先生から何度も書き直すようにご指導を受けていた先輩もいました。

50年近くの年月を経た今でも、最新技術を理解するのに役立つ“基礎”知識として、非常に多くのことを学ぶことが出来たことに、そして学び続けるという習慣を目の当たりに見せて頂いたことに、言い尽くせないほど深く感謝しています。

研究室旅行

夏休みに研究室旅行に出かけました。静岡県の寸又峡温泉です。東京から東海道新幹線、東海道本線、大井川鉄道を乗り継いでたどり着く山奥です。南アルプスを南から北へ大井川に沿って登って行く旅でした。2泊して中1日に溪谷沿いの林道歩きに出かけました。舗装はさ

れていませんでしたが、トラックが通れるくらいの砂利道を歩くハイキングです。溪谷は谷が深く、急な斜面に作られた林道ですから夏でも涼しく心地好い散歩ですが、吊り橋の歩道を渡るコースはスリルがあります。吊り橋の下の水面まで50～60メートルはありそうです。廻り道もあるそうですが、かなり遠廻りになります。結局、全員が吊り橋を渡ることになりました。私は高所恐怖症でしたから、一步一步、腰が引けていました。写真に撮られています。

先生はその頃40歳代で学生は20代。先生の方がお元気でした。「普段から歩いていますから」と、ここでも普段が大切と教えて頂きました。

広い視野

若い頃にカナダのマギル大学 McGill University (ケベック Quebec州、モントリオール Montreal) の研究室に留学しておられた先生は、研究のためばかりでなく、英語の必要性を早くから意識して勉強されていたそうです。ご自身の研究テーマに近い文献や成書を読むことから始めたことと仰っていたことを覚えています。

先生の日本語翻訳文は非常に簡潔明瞭でした。ご自身の日本語になっていたように思います。

英文を読み、日本語に置き換えて理解し、ご自身の研究や執筆に生かし、さらにその研究成果を英文に書き、それを広く発表するという作業は、地道な作業の蓄積を必要とするものと思われまます。「習うより慣れよ」とはいうものの、「慣れる」まで学ぶということでしょう。

昼食は毎日、教授室から出て研究室の片隅にある休憩スペースでお弁当を召し上がって、助手さ



物理化学 (近藤研)

んや大学院生、研究生などと「話しながら」お食事を楽しんでおられました。食後はまた教授室に戻り、英字新聞(確かAsahi Evening Newsでした。朝刊だと時間がかかって読み切れないから、と仰って)を読み、学生の文章を添削したり、論文に目を通したり。

先生はサイエンスのみならず音楽や絵画・彫刻などを鑑賞して楽しんでおられました。理大のオーケストラや混声合唱団の演奏会にも、ご家族と一緒に、よくお出かけになっていました。

卒業してからも1年に何回かお目にかかる機会がありましたが、いつも「勉強していますか?」というお尋ねから始まり、英語で何を讀んだか、どこか外国に行ったか、などなど話題に困ることはありませんでした。

最近が多忙を言い訳に、なかなかお目にかかる機会がありませんでした。それでもお会いできるときには、何を話題にしようかと「予習」するのが楽しみでした。

2018年9月15日 近藤 保先生は満91歳で旅立たれました。



左から 小暮さん(11期) 畑中(島野)さん(14期)
近藤先生 竹内(関根)さん(14期)

山口先生を悼む

東京理科大学薬学部講師の山口稽子先生が、平成29年にご逝去されたと聞きました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

山口先生は、昭和40年に東京理科大学薬学部をご卒業され、研究生として薬学部生理化学講座(守屋寛教授、森脇千秋教授)で研鑽を積まれた後、助手して勤務され、学生の教育、研究指導に尽力されました。

森脇教授がご逝去され後に、臨床病態講座の片山教授の元で、精力的に研究活動を続けられました。また、学部の運営にも長年に亘って貢献されました。

私が平成4年に、薬学部生化学講座に赴任して来た時

元薬学部教授 田沼 靖一

には、片山教授の元でご研究を進められており、いろいろと臨床病態研究のことでサジェスションを頂きました。いつも誠実に対応して頂きました。また、何事にも真面目に取り組む研究姿勢が今でも印象に残っています。

教員生活を全うされて、自由な時間を過ごされているなかで、病に襲われたこと?を思うと、残念でなりません。無念な思いが心に残ります。しかし、先生の誠実な真摯な姿勢は多くの学生達の心にも残り、引き継がれていくものと確信しています。

山口先生の本学薬学部に対する多大なご貢献に感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

山口 稽子先生を悼む

東京理科大学薬学部を定年退職された山口稽子先生が一昨年他界されたことを知り、お元気な頃の研究姿などが走馬燈のごとく思い出されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

東理大薬学部の2期生として山口先生は入学され、1965年3月薬学科を卒業後、旧 生理化学研究室（現 生理化学研）で故 守屋寛教授・故 森脇千秋教授のもとで助手・講師として勤務されました。改組に伴い鈴木（潤）先生・海保先生と共に情報薬学系の研究室運営に携われ、約40年と永きにわたり学生の教育・研究指導に尽力され、2007年に退職されました。

生理化学研では森脇教授の下で研鑽を積みタンパク質の腸管吸収に関して薬学博士を取得されました。山口先生の背中をみて育った生理化学研の多くの卒業生が、現在も大学・研究所にて研究・教育に携わっております。

9期（元摂南大学教授） 藤森 廣幸

先生の影響力は絶大であったと思われまます。

9期生の私は卒研時代を含め約10年間生理化学研に在籍しました。山口先生には公私ともに大変お世話になりました。思い出が沢山ありすぎて、紙面が足りなくなるので、“薬学部の生き字引”の山口先生の薬学部に残された足跡の一部を次に書かせて頂きます。

1987年薬学部同窓会の設立に際して、先生は初代副会長として大変尽力されたとお聞きしております。翌年3月に発行された同窓会創刊号に「泥舟にはしない。この一念でやるっきゃない」の意気込みを記されています。現在の薬学部同窓会は「泥舟」ではなく「母艦」として曳航を続けております。同窓の輪を常に大切にされた山口先生の“思い”が、さらなる大輪に育つことを祈念いたします。

ここに改めて心よりご冥福をお祈り申し上げます。

星野 修先生のご逝去を悼む

元薬学部教授 原 博

東京理科大学名誉教授 星野 修先生が2019年6月22日にご逝去されました。83歳のご生涯でした。

星野先生は1966年秋に理化学研究所から理科大薬化学教室に助教授として赴任され、（故）梅沢文輔教授と共に教育・研究に励まれ、多くの優秀な卒業生を輩出されました。その間、コロンビア大学に留学されストーク教授の元で研鑽を積み、帰国後、アルカロイドの合成分野において世界的なレベルの研究成果を次々と発表されました。教授に昇任後も教育・研究はもちろんのこと、学部長としても学部全体の業務が滞りなく進捗するようにご努力をなされました。また、理科大の理事・常務理事として理科大全体の運営にもご尽力されました。そのようなご功績が世に認められ、2014年秋に瑞宝小綬章を

授章されました。

先生は誠実さと優しさに満ちあふれたお人柄で、誰からも敬愛される存在でした。定年になられてからもOB達との路上観察会に必ず来てくださり、東京中、一緒に歩き回りました。他の研究室の先生方とも大変仲良くされ、打ち上げの飲み会ではお好きなビールを飲みながら、いつもにこやかに話されていたことが未だに脳裏に焼き付いています。この写真を撮りました昨年7月の江東区の散歩が最後となりました。もっと一緒に歩きたかった思いでいっぱいです。長年ご指導いただきました一人として、ここに先生のご遺徳をしのび、心からご冥福をお祈り申し上げます。



江東区旧大石住宅にて（2018年7月8日）
向かって左より原博先生、星野修先生、
松岡隆先生、海保房夫先生

研究室紹介

真野（臨床薬剤情報学）研究室

臨床薬剤情報学研究室 准教授 真野 泰成



【はじめに】

私は、1997年（平成9年）に本学薬学部薬学科を卒業し（第34期）、本学大学院修士課程を修了後、病院薬剤師として地元北海道の市立蘭総合病院薬局、その後、金沢大学医学部附属病院薬剤部で勤務しました。とくに金沢大学病院時代は、当時の第二内科病棟担当薬剤師として患者の薬物治療に関わってきました。2005年（平成17年）からは新設された国際医療福祉大学薬学部の教員となり、6年制薬学教育・研究の立ち上げに携わってきました。2015年（平成27年）に母校理科大に戻り、臨床薬剤情報学研究室を主宰し、調剤学や医薬品情報学演習などの講義や、模擬薬局で行う医療薬学実習を担当しております。薬剤師経験を有する実務家教員として、理科大の特色を出せるような薬学教育の構築とともに、医療薬学研究に取り組んでいます。

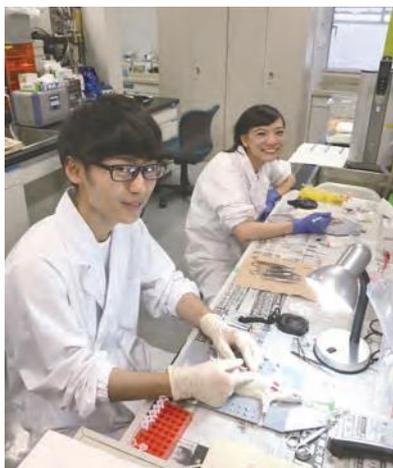
【研究室のミッションと研究内容】

当研究室では臨床現場で直面する問題点を抽出・解析するとともに、新たな薬学的知見（エビデンス）を構築し、臨床にフィードバックすることを目指し、研究を行っています。このミッションを達成のために、「基礎的（薬剤学的）アプローチ」と「臨床的（疫学的）アプローチ」の両輪で研究を進めています。

1. 医薬品の体内動態や薬効・副作用を考慮した最適な投与設計法の開発【基礎的（薬剤学的）アプローチ】

a) アセトアミノフェン持続点滴投与における安全性および有効性を目指した薬物動態の検討

がん患者の数は年々増加しており、がん患者の疼痛を抑えることは重要です。2013年に発売されたアセトアミノフェン（AP）静注液は経口摂取困難ながん患者の疼痛治療薬として使用されていますが、1日に4～6回の頻回投与が必要な注射剤です。在宅医療への移行が進む中で、1日



数回注射を必要とするAP静注液投与は在宅患者に対して使用が困難といえます。そのため在宅緩和ケアにおけるAP静注製剤の24時間持続静脈内投与の確立が求められます。当研究室では、ラットを用いたAP持続点滴投与時における体内動態を把握するとともに、有効性と安全性を検討し、臨床応用を目指した研究を行っています。

b) メトトレキサート大量療法時の副作用軽減を目指した予防に関する検討

メトトレキサート大量療法（HD-MTX）は骨肉腫等に有効な治療法です。しかし、肝障害の発症率が高く、化学療法の変更などにより治療スケジュールの進行に大きな障害となっています。HD-MTXによる肝障害に対しては、肝庇護剤であるグリチルリチン（GZ）が使用されていますが、治療効果に関するエビデンスは十分であるとは言えません。さらに、近年、MTXとGZの同時投与によりMTXの血中濃度が上昇するという報告があり、MTX血中濃度と肝機能障害の相関もはっきりしていないのが現状です。そこで、当研究室ではHD-MTX療法時の副作用軽減を目指し、ラットを用いた基礎的研究により、MTX血中濃度と肝機能障害の関係性および、GZのMTXへの体内動態への影響および肝障害発現との関係性を検討しています。

c) 新規化合物の体内動態の検討

理科大の応用化学科の先生が合成した化合物Xは、作用機序が異なる新規治療薬として開発が期待されています。理科大内および他大学との共同研究で、in vitroでのメカニズム解析、in vivoでの薬効評価などが行われています。当研究室では、有効性および安全性を把握するため、定量法を確立して、ラットを用いた体内動態の検討を行っています。

2. 大規模医療データベース（いわゆる医療ビッグデータ）を利用した新たな知見の創出【臨床的（疫学的）アプローチ】

a) レセプトデータを利用したドラッグ・リポジショニング研究

レセプトは病院・薬局で支払う会計データのことです。診療報酬明細書です。レセプトのデータには病名、薬剤投与、検査や手術の実施など保険償還の対象になる医療行為が記録されています。逆にいうと、レセプトデータ

を紐解けば、患者がいつ、どんな病気になり、どんな薬剤が投与され、いつ手術したかなどの医療行為がわかります。このような個々のレセプトデータを集めた大規模な医療情報データベース（医療ビッグデータ）がレセプトデータベースです。一方、ある疾患に有効な既存薬から、別の疾患に対する新たな薬効を見つけ出すことをドラッグ・リポジショニングといい、近年注目されています。当研究室では、400万人を母集団としたレセプトデータを利用して、既存薬の新たな薬効開発（ドラッグ・リポジショニング）の研究を行っています。具体的には既存薬における、がんや認知症、精神疾患の予防効果の検証を行っています。レセプトデータを用いることで、データ上の臨床試験を行い、既存薬の適応拡大を目指しています。また、研究の成果は臨床試験（治験）へ繋げる橋渡しとなると考えています。

b) 大腸がん予防に向けた大腸内視鏡検査の有用性および安全性の検討

日本における大腸がん罹患率は、男女ともに臓器別で上位を占めています。大腸内視鏡検査は大腸がん予防のために広く利用されていますが、日本人の大腸がん予防への具体的な効果は知られていません。そこで、医療ビッグデータであるレセプトデータベースを用いて、日本初の大腸内視鏡検査実施と大腸がん予防に関するエビデンスの構築を目指し、消化器内科医と共同研究を行っています。また、内視鏡検査の安全性（偶発症の発生）の検証も行っています。

c) 高齢者フレイル（虚弱）の安全な薬物治療実施に向けた研究

「フレイル」は加齢に伴い、運動機能や認知機能の低下、生活機能が障害され心身の脆弱化が出現した状態を言います。つまり、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間を意味します。多くの方は、フレイルを経て要介護状態へ進むと考えられていますが、高齢者が増えている現代社会において、フレイルに早く気づき、正しく介入（治療や予防）することが大切です。高齢者に対する薬物治療については、これまで元気な方、フレイル状態、要介護状態を一緒にして考えられてきました。当研究室ではフレイルに対する適切な薬学的介入、すなわち、安全な薬物治療実施に向けて、レセプトデータや実際の病院の電子カルテ等の医療情報データベースを利用し、フレイルの不適切処方の実態を把握するとともに、それに伴う有害事象の検証を行っています。

【おわりに】

母校の教員となり今年で5年目になります。現在、研究室のスタッフは教員（真野）1名、大学院生、学部学生あわせて18名です。研究室の学生とともに、薬物治療に有用なエビデンスの構築を目指し研究を発展させていきたいと思っております。また、研究・教育を通して、問題解決能力を兼ね備え、社会に貢献できる人材を育成するように努力していく所存です。

最後に東京理科大学薬学部同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



恩師からのたより

薬剤師生涯教育に関わり想うこと

福室 憲治



東京理科大学薬学部卒業の皆様が各方面で活躍されていることを見聞き、曾て22年間教鞭を執っていた者として大変に嬉しく思っています。退職して既に19年が経過しておりますが、退職後に薬剤師生涯教育に関わるようになり現在も続けております。今回東京理科大学薬学部同窓会誌「ふなかわら」に寄稿する機会を頂きましたので、薬剤師生涯教育企画のために毎日接している医療ニュースを通じ、薬剤師や医療などについて感じたことを記したいと思います。

1. 薬剤師生涯教育への関わり

筆者が薬剤師生涯教育に関わったのは平成14年からのことでした。ITのベンチャー企業である(株)テイクグッドケア社(TGC社)が薬剤師生涯教育を事業の柱として立ち上げました。日本薬剤師研修センターの指導を受け、同センターが実施している研修認定薬剤師制度のインターネット研修実施機関として「ファーマストリーム」の名称で運営することになりました。そのために委員会の設置が義務付けられ、筆者は委員の人選を依頼されました。そこで薬学部教授、病院薬剤部長、保険薬局薬剤師などの中から10名の委員を選び、「薬剤師教育研究会企画委員会」として事務局をTGC社内に置いて設立しました。主要な任務は薬剤師生涯教育の企画・運営を行います。筆者は副委員長で、毎月1回運営会議を開催し、その議題の作成や、新聞、雑誌、インターネットにより医療ニュースを収集し、情報内容をカテゴリー別に分類整理し、タイトル・発信元・配信の日時を記載した一覧表を作成し配布資料として提出しています。

最近の印象的なニュースの一つだけ挙げるとすれば「がん医療」があります。ゲノム医療と分子標的薬はがん治療の個別化を実現していますが、まだ全てに実現出来ているわけではありません。がんの診断・治療の開発研究は兎に角目まぐるしい位の速さで進展しているようです。免疫チェックポイント阻害薬が登場し、がん免疫療法として注目されるようになりました。最近承認されたCAR-T細胞療法や開発研究中のがん免疫療法などもあります。将来はがん免疫療法ががん治療の主役になることが期待されます。

2. 薬学教育と薬剤師養成教育

薬学教育6年制になって薬学教育の方向性が大きく変わってきました。従来の薬学教育は物質志向(product oriented)の教育でしたが、6年制になってからの薬学教育は患者志向(patient oriented)の教育になりました。これは薬剤師の業務が対物業務から対人業務にシフトし

てきたこと、すなわち薬剤師の職能が医療人として医療の一翼を担い、患者に寄り添う業務であるということです。

筆者の恩師は東京理科大学薬学部薬物治療学講座を創設した東京大学名誉教授の故高木敬次郎先生ですが、筆者が東京大学病院薬剤部から東京理科大学薬学部に着任した頃のことでした。「君ね、薬学教育というのは薬剤師養成教育なんだよ」ということを言われました。今でも忘れることが出来ない一言です。そもそも東京大学薬学部は研究者、製薬技術者、官僚などを養成することを旨としており、薬剤師の「やの字」もない所と聞いていたので意外な気がしました。ところが東京理科大学は「ミニ東大」であるということが広く知られていることを知り二度吃驚でした。筆者の教室の学生さんが病院薬局への就職を希望していましたので、某病院薬局の薬剤部長さん宛てに推薦状を書いて面接をした結果、一言「理科大は教育方針が違うから」と言われたとのことでした。こうした考えは医療現場に広く知られていたのかも知れませんが、理科大薬学の学生さんは優秀という多くの評価も頂いておりました。当時薬学はサイエンスを教えているのであって薬剤師養成のための教育をしているのではないというのが多くの教員の考えであったと思います。それが4年制存置に繋がっているのかも知れません。ところが3年前に岐阜薬科大学が4年制学科を廃止し6年制薬学教育に一本化しました。その結果学生の質が明らかに上がったとしています。研究重視の姿勢に変わりはありませんが、「薬剤師資格を持った研究者こそが薬学部出身の研究者である」という学長の基本理念によるものと言われます。平成31年4月から大阪大学薬学部が国立大学で初めて6年制一本化に踏み切っています。6年制に一本化することが研究重視の姿勢を捨てて薬剤師養成教育に方向転換したのではなく、薬剤師の業務が薬学を含む医療に関する研究の上に成り立つものと考えるところから、研究重視の薬剤師養成教育により、研究が出来る薬剤師、臨床がわかる研究者を養成することです。これこそが薬学教育の本来の在りかた(理想像?)のように思われるのです。また薬剤師の業務が対人業務にシフトされているとは言え、薬の専門家であることは物質の専門家でもあるのです。

薬学教育6年制に対する指摘もありました。すなわち国家試験の予備校化、卒業研究の軽視、研究力の低下、薬学部新設ラッシュによる学生の質の低下などです。薬科大学入学者は2019年度において約4割の大学が定員割れになっており、6年制大学院は約6割が定員割れの状

況です。また財務省の部会において、6年制薬学部の入学者に対する卒業生の割合、国家試験合格率等が問題として提起され、「高等教育を修めたにもかかわらず、将来必要となる十分な知識や技術などの成果を身につけられない例がある現状は問題」とし、国家試験合格率が悪い大学は教育の質に問題があり、国庫補助金の交付は出来ないというものです。

3. 薬剤師を取り巻く環境

医薬分業バッシングについては、2018年（平成30年）7月5日に開催された厚生労働省の厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会で、薬局への不満爆発、大半の委員が今の医薬分業は不要としました。医薬分業バッシングのそもそもの始まりはこの会議のようです。

すなわち「現状の医薬分業で患者・生活者はメリットをほとんど感じていない」、「医薬分業自体を見直す時期に来ているのではないか、院内処方へ回帰する議論があってもいいのではないか」、「極論すれば、薬剤師が医療にとって必要かどうか議論になっている」、「対物業務から対人業務へお題目として打ち出されても、実現していない」、「確かに一生懸命にやっている薬局はあるが、多くの薬剤師、薬局の意識が変わらない限り、医薬分業の在り方は変わらない」などの意見が出ています。

そもそも患者さんの薬剤師に対する認識、理解がイマイチであることと、それ以上に恒常的に一般の人々の認

識・理解が得られていないところが問題であろうと思われるのです。一般の人々は、医師の仕事は人の命を救うという意識が定着し畏敬の念を持っているのに対して、薬剤師の仕事の重みは他のいろいろな職種と変わりなく特別なものではないと考えられていると思います。医療の中で薬剤師は何が出来て何をやっているのか、一般の人々には見えないし、わかって貰えていないのだと思います。薬剤師は相変わらず薬局の中に籠って仕事をする事のほうが多いと思います。薬剤師は受け身で仕事をするのが当たり前になっていると思うのです。薬剤師の意識改革が必要と思いますが、やるべき事は一般の人々に薬剤師が出来ることを認識・理解して頂くことです。生活指導、栄養指導など、健康維持に関するアドバイスを積極的に一般の人々の中に入って行くことも良いのかも知れません。

薬剤師をめぐる問題として、厚労省の「調剤業務のあり方」の通知、「健康サポート薬局」、「薬局業務とAI」などがあります。これらに対して皆様はどのように考えておられるでしょうか。いずれも薬剤師職能発揮に追い風になる事柄であると認識しております。

卒業生の皆様の益々のご活躍を祈念致しております。一方、筆者は老害を垂れ流さぬよう留意しながら薬剤師生涯教育を見守り続けて参ります。

トピック

「大村先生を訪ねるツアー」参加報告と 理窓会支部への参加のお願い

東京理科大学薬学部同窓会 会長 上村 直樹



理窓会増潤会長様のご理解とご配慮により、ホームカミングデーでの薬学部ブースの開設や令和元年9月7日に開催された「大村智先生を訪ねるツアー」のツアー幹事をさせていただきました。今号の表紙はその写真です。大村先生は東京理科大学大学院理学研究科修士課程も修了後に北里大学に移られましたが、東京理科大学薬学部の講義も担当されたため、教えていただいた卒業生も多くいらっしゃると思います。今回のツアーでは大村先生ご本人のお話も聞けるとあり、36名が参加しました。そのうち8名は薬学部卒業生でした。当時の教科書「微生物薬品化学」を持参したところ大変懐かしがっていらっしゃいました。全員が先生のお話に感動したあとに、先生が生家の隣に建てられた美術館、温泉、そば処を楽しんで帰って参りました。

今回のツアーで理窓会山梨県支部の方々とも懇親を深

めることができました。学部を超えた同窓との出会いは意義深いものがあります。今後は各地の薬学部同窓生がその地区の理窓会支部への参加と親睦をお願いしたく、理窓会増潤会長様からのご案内を掲載させていただきました。理科大卒業生は全員理窓会正会員ですので、支部の扉をノックしていただければ幸いです。



東京理科大学薬学部同窓会の皆様へ

理窓会会長 増淵 忠行

この度、薬学部同窓会上村会長様から薬学部同窓会誌「ふなかわら」に、理窓会紹介のスペースを頂き大変感謝しております。上村会長様より、薬学部同窓会会員の皆様が、理窓会についてよくご理解いただけていないところもあるので、この機会にぜひ説明をとのことですので、簡単に説明させていただきます。

理窓会は、全卒業生が卒業と同時に（自動的に）会員になる校友会です。

東京理科大学薬学部卒業生の皆さまは、会費納入・未納にかかわらず、全員が理窓会会員です。

ここで、理窓会の役割と組織について簡単に説明させていただきます。

- 理窓会の目的は、(1)大学の発展と応援、(2)卒業生の懇親と交流、(3)社会貢献です。
- 理窓会支部組織；全国47都道府県に理窓会の支部組織があり、皆さまのご参加、大歓迎です。
- 理窓会は、卒業生と大学との繋がり、同窓会と大学との繋がり、卒業生相互の繋がり拡大と強化を応援するサービス組織です。理窓会の活動費は、大部分を卒業生が拠出する理窓会費によって賄っています。年度方針と施策は、卒業生から選出された代議員による代議員総会で審議決定されます。理窓会の運営と事業は、正副会長会、常務委員会、各種委員会により行われ、夫々の事業執行に多数の卒業生が参加しますが、すべてボランティア活動です。
- 薬学部同窓会と理窓会の関係
薬学部同窓会は、理窓会の中の関連団体の学部に位置づけられます。
- 各支部の連絡先は、ネット検索「理窓会HP」からご確認ください。

全国に広がる47支部ネットワーク

北海道・東北地区	北海道支部・青森支部・岩手支部・宮城支部・秋田支部・山形支部・福島支部
関東・甲信越地区	茨城支部・栃木支部・群馬支部・埼玉支部・千葉支部・東京支部・神奈川支部・山梨支部・長野支部・新潟支部
東海・北陸地区	富山支部・石川支部・福井支部・静岡支部・(東部地区・中部地区・遠州地区)・愛知支部・岐阜支部・三重支部
近畿地区	滋賀支部・京都支部・奈良支部・和歌山支部・大阪支部・兵庫支部
中国・四国地区	鳥取支部・島根支部・岡山支部・広島支部・山口支部・香川支部・徳島支部・高知支部・愛媛支部
九州・沖縄地区	福岡支部・佐賀支部・長崎支部・熊本支部・大分支部・宮崎支部・鹿児島支部・沖縄支部

支部の連絡先は理窓会事務局にお問い合わせください。

ユニークな活動を展開する多彩な70関連団体

海外理窓会	北加理窓会、上海理窓会、シンガポール理窓会、インドネシア理窓会、マレーシア理窓会、タイランド理窓会、ベトナム理窓会
地域の会	群馬理窓会倶楽部、関西理窓会連合会
研究室・ゼミの会	理窓亀の子会(物理大竹研)、工学部経営工学科矢野研究室OB会、工学部化学工学研究室同窓会
学部会	薬学部同窓会
学科会	築理会(工学部 建築学科)、野田建築会
クラス会	五・七同窓会、五期の会
スポーツの会	理窓スマッシュ会(II部軟式庭球)、理窓ヨット倶楽部、ワンダーフォーゲル部OB会、鶴志会(柔道)、理窓卓球会、I部軟式庭球部OB会、理窓会(空手)、バスケットボールOB&OG会、神楽坂会(ハンドボール)、理窓会、II部山岳部OB会、II部スキー部OBトナカイ、理窓排球会、I部体育局スキー部OB会、少林寺拳法部OB会
研究・技術の会	理窓博士会、理窓光学会、理窓技術士会、理窓知的財産クラブ、理窓ビジネススクール会、理窓環境マネジメント研究会、無線研究部OB-S40年会、天文研究部同窓会、I部化学研究部OB・OG連絡会、理窓会久喜会計人の集まり、理窓気象予報士会、梨花の会
文化の会	理窓美術同好会、理窓棋院、混声合唱団OB会(理声会)、英語研究部OB・OG会、二十三和音の会、理窓会男声合唱団、鹿踊りのはじまりを歌う会
サロンほか	からくり会、理窓サイエンスカフェ、理窓留学生会
教育の会	理窓教育会、北斗の会、東京理科大学数学教育研究会
ビジネスの会	理窓ビジネス同友会、東京理科大学同窓経営者会
職域の会	理窓会高砂熱学支部、鹿島理窓会、清水建設理窓会、竹中工務店理窓会、大成建設理窓会、NTT理窓会、アズビル理窓会、TUS事務局理窓会、理窓ワトソン会、織機理窓会

地域会、大学クラブのOB会、研究室OB会、企業内同窓会、職種会などの理窓会への登録制度があります。ぜひ登録して同窓の輪に参加してください。

薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また 本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。

そして 本年度から新たな同窓生となりました平成31年3月卒業生56期、修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は同窓生の真心と会費により運営されております。

今後とも、よろしく願いいたします。

2019年度会費納入のお願い

2018年度に引き続き、2019年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会

費納入の際には、同封の郵便局振替用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円（何年分でも納入できます）、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしく願い申し上げます。

(終身会員・∞)

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

(20××年3月まで済み)

20××年3月まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

(2019年度・お願い)

2019年度の会費未納の会員の方：よろしく願い致します。

平成30年度 会費納入額詳細 (平成31年3月31日現在)

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
平成30年度卒業・修了者	18,000	1	1,221,000	41	0	0	1,239,000
既卒者	290,000	48	1,285,000	27	31,000	4	1,606,000
合 計	308,000	49	2,506,000	68	31,000	4	2,845,000

薬学部同窓会会員数 (平成31年3月31日現在)

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	9,841名	2,209名	947名
大学院修了生	215名	19名	8名
合 計	10,056名	2,228名	955名

「幹事会」は「定例会」になります

薬学部同窓会では、年に4回（4月、7月、10月、1月頃）、幹事会を開催してまいりました。今後は、より多くの皆様にご参加いただきたく、名称を、「幹事会」から「定例会」とすることが、今年7月の同窓会総会にて承認されました。

日時、場所についてなど、詳しくは同窓会ホームページ (<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>) に掲載されます。

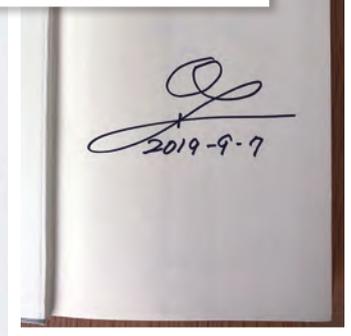
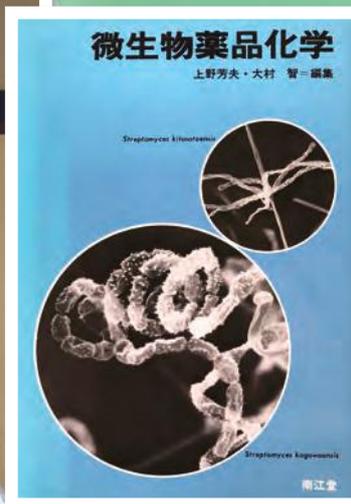
毎回、ささやかではございますが、懇親会も開催いたしております。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

特に、33期、36期、41期以降の同窓の方、ぜひ定例会にいらしてください。

心よりお待ちしております。



理窓会 近藤明氏 (工・工化1973) 撮影



東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局
 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館1F
 FAX : 04-7121-4531 E-mail : jimu@ridaiyakudo.gr.jp
 FAXまたはE-mailのみの受付とさせていただきます。

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>
 行事などに関する最新の情報を掲載しておりますので是非ご覧ください。また、ホームページのWEB名簿システムを利用して、パソコンから登録情報の変更をすることができます。ぜひご利用ください。

編集後記

お待たせ致しました。今回の「ふなかわら」、いかがでしたでしょうか。今回発行分より、紙面を全ページカラー刷りでお届けさせていただきことと致しました。より読みやすく、写真等もより多く掲載させていただき、充実した紙面にして参りたいと思っておりますので、今後ともよろしくごお願い致します。また、今回、「ふなかわら」のお届けが遅くなり、申し訳ございませんでした。今回より、「ふなかわら」の発行時期をこの時期にずらして皆様にお届けさせていただきことと致しました。いままでの発行時期ですと、毎年7月に開催されている薬学部同窓会総会での議決事項をおよそ1年遅れでご報告させていただき格好となっております。この薬学部同窓会総会での議決事項をタイムリーに掲載させていただきため、今回発行分より、この時期にお届けさせていただきます。今後とも「ふなかわら」をよろしくごお願い致します。(KU)

令和元年度同窓会幹事一覧

小原 侃 (1)	石井 啓子 (10)	林 譲 (14)	小川惠津子 (19)	牧田 美保 (22)	大瀧 充 (29)	金枝 有香 (40)
黒崎 浩己 (1)	安達 順一 (11)	昌子久仁子 (14)	小嶋 知夫 (19)	和田 和裕 (22)	神谷 貞浩 (29)	澤井 美里 (40)
山口堅志郎 (1)	石井 甲一 (11)	菅原 伸治 (15)	鈴木 康正 (19)	上村 直樹 (23)	内村 兼一 (30)	柴崎光太郎 (40)
生田安喜良 (2)	小暮 涉 (11)	日向章太郎 (15)	高梨 契典 (19)	桐井まゆみ (23)	水 八寿裕 (30)	高橋 智至 (40)
鈴木 政雄 (3)	岡宮 智子 (11)	和田 浩志 (15)	永井 健一 (19)	佐藤 薫 (23)	菊地 主税 (30)	斎藤 友佳 (43)
中村 洋司 (3)	富秋 英志 (11)	遠藤 健治 (16)	長谷川俊雄 (19)	中村 宏 (23)	高橋 未明 (31)	杉野由香里 (43)
池田 幸雄 (4)	向井 呈一 (11)	関口真紀子 (16)	小松 俊哉 (20)	森田 深雪 (23)	中川 瑞穂 (31)	永井 弓子 (43)
幡野千丕子 (4)	飯島 康典 (12)	田畑 新 (16)	飯野 直子 (21)	秋山 裕一 (24)	佐々木正大 (32)	永井 惠子 (43)
山田 高照 (5)	金澤 幸江 (12)	吉田 直子 (16)	吉田 雅人 (21)	五十嵐 澄 (24)	渡邊 悦史 (32)	渡邊 松本洋典 (43)
湯田 康勝 (5)	田中貴代子 (12)	今 和枝 (16)	安藤 秀一 (22)	金森 道枝 (24)	小島 昌徳 (34)	高尾 圭一 (45)
藤井 幸子 (6)	田端 敬一 (12)	渡部 敏夫 (16)	磯部 総一郎 (22)	佐藤 修一 (24)	野村 香織 (34)	亀山あずさ (52)
寺山 博行 (7)	根元 恒男 (12)	青山 隆夫 (17)	小川 政彦 (22)	伊集院 一成 (25)	松井 洋子 (34)	宮田 悠 (52)
松岡 隆 (8)	小高 賢一 (13)	押尾 茂 (17)	柏田みどり (22)	小林 寧 (26)	宮田 正一 (35)	高橋 悠一 (52)
奥村 成太 (8)	濱野 朋子 (13)	大山 邦之 (18)	樽野 弘之 (22)	関根 靖之 (26)	金井 亮介 (37)	庄野 隼人 (54)
武尾 勝司 (9)	石井 文由 (14)	関 裕史 (18)	永井 健二 (22)	若松 正克 (26)	浅井 将 (37)	野田 大将 (54)
中島 敏夫 (10)	岩崎 修 (14)	渡辺 宏二 (18)	高井 幸恵 (22)	前田 真 (27)	上林 敦 (38)	田代 裕人 (54)
原 しげ子 (10)	畑中 典子 (14)	山内 紀子 (19)	花岡 信子 (22)	秋本 和憲 (28)	遠藤咲智子 (39)	西須 裕人 (54)